

青丘文庫研究会 月報

No.246

2010年9月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp

①在日朝鮮人運動史研究会関西西部会 (代表・飛田雄一)

②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)

郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料3000円

※ 他に、青丘文庫に寄付する図書の購入費として2000円/年をお願いします。

残暑お見舞い申し上げます。

2010年9月

朝鮮近現代史研究会代表 水野直樹

在日朝鮮人運動史研究会関西西部会代表 飛田雄一



第319回在日朝鮮人運動史研究会関西西部会 (2010. 5. 9)

戦前期大阪における朝鮮人「不法占拠」クリアランスと共同住宅

塚崎星之

戦前期に渡来した朝鮮人が最も困ったことは住宅問題であった。日本人家主は家賃の滞納(実際には長期にわたる滞納率は日本人の方が高かった)、多数の居住、「不衛生」などの理由をつけて、部屋を貸し渋った。急速な人口増加とともに、出稼ぎから定着化が本格化し、家族での居住も多くなった1920年代後半から、住宅問題が様々な形で噴出し始めた。中には「不法占拠」地に居住する者も出てきた。

最初に「不法占拠」が問題化したのは、大阪市大正区の南端の埋立地・船町であった。1920年頃から埋立て工事に従事した朝鮮人や不況で近くの工場を解雇された朝鮮人が住み始め、400人近くに膨れ上がっていった。1929年、この地に日本最初の国際飛行場である木津川飛行場が開場することになり、立退きが問題となった。朝鮮人たちは団体を作り、内鮮協和会の関係者たちに救済策を講じるよう要求した。その結果、内鮮協和会は大阪市の土地の提供を受け、当時の相場よりはるかに安い家賃の共同住宅を作り、「不法占拠」者を移住させた。当時の社会事業関係者には、競争社会と一線を画し、互助運動や社会事業の大衆的運営を主張する「社会連帯論」が広まっていた。しかし、場所は屠場の横、木津川塵芥焼却場の近くという環境の悪い所であった。

1932年11月に、昭和天皇が陸軍特別大演習のために来阪することになった。「治安」面、「衛生」面などから、朝鮮人の「不法占拠」を解消しようという動きが3か所で起こった。堺の今池では民間の寄付金で住宅を作ろうという動きが起こったが、寄付金が集まらず、天皇来阪時には間に合わなかった。1935年にやっと堺市と内鮮協和会の手で共同住宅が、朝鮮人も多く住んでいた被差別部落の耳原に作られた。天満橋付近の将棋島では府会議員・市会議員が

朝鮮人の居住権を主張したため、バラックの強制撤去は見送られ、朝鮮人が間に立ち、金銭で解決する方法が取られた。その際、住宅が見つけれない者には住宅の斡旋が行われた。また、此花区新家は朝鮮人の拾い屋がバラック住宅を建てていたが、天皇来阪の直前に拾い屋の商品を買い集めていた日本商店主が、自分の土地に共同住宅を建て、朝鮮人を収容した。この時期に前後して、沖縄出身者・朝鮮人からなる炭焼き部落や「朝鮮遊廓」のクリアランスも行われた。これらの地域のクリアランスはそれぞれの場所に対応が違い、決まった解決の仕方はなかった。しかし、いずれの場合も社会事業関係者や政党関係者などは朝鮮人の居住権に一定配慮の必要性を認め、ただ強制退去させるようなことは行わなかった。

また、その頃、民間「篤志家」による朝鮮人専用の共同住宅も建てられ始めた。方面委員、政治家、社会運動家、さらには右翼の活動家など様々な立場の人々がいた。彼らの多くは建前的是ではあるが、「一視同仁」などの理念を持ち、日本人と朝鮮人は平等であり、地域社会に受け入れようという信念を持っていたために、自分の財産を使ってまで住宅建設を行った。中には破産にまで追い込まれた者もいた。しかし、建設には地域住民等の反対も各地で起こった。また、資金等の面からも量的な広がりには成りえず、大正区や堺以外にも建てられた内鮮協会の共同住宅も含め、住宅問題の根本的な解決につながらなかった。共同住宅を確保できた朝鮮人たちは、住宅供給者に感謝し、「親日」派になっていった。

内鮮融和事業調査会が作られ、朝鮮人を管理・統制していく方向性が打ち出される1934年以降になると、警察や矯風会が前面に出て、「不法占拠」の強制撤去も行われるようになっていく。それとともに、泉南地方では警察の特高係が奔走して、町営の朝鮮人共同住宅の建設が始まった。住宅には国旗掲揚台も設けられるなど、「親日」派にならなければ入居することはできなかった。その後、これらの住宅は親日派団体である相愛会・啓明会が管理受託するようになり、住宅政策が同化・皇民化政策の一端を担うようになっていった。

＜移住連ニュース2010.7、131号より＞

ひとつのことばから 「旅」

NGO 神戸外国人救援ネット／神戸学生青年センター 飛田雄一（ひだ ゆういち）

旅にでかけるのは楽しい。最近、仕事で出かけるときにもできるだけ寄り道をして戻ってくることにしている。

神戸学生青年センターでは、阪神大震災時の被災留学生支援活動の関連で六甲奨学基金がつけられ奨学金の支給も行っている。その留学生と話をしていたら旅行することが少ないという。北海道、沖縄は是非とも留学中に行ってほしいところだが、行ったことのない留学生が多い。日本人がイギリス留学でもすれば最後にはヨーロッパ旅行をしてくるのではないと思うが、特にアジアからの留学生には日本国内旅行をする余裕はないようだ。

そこでJRパスの留学生への適用をJRに要望したい。JRパスは日本への旅行者が国外で購入できるもので結構安い。が、このパスは旅行者専用で日本に在住する留学生には適用されない。ユーロパスが留学生にも適用されているのかどうか知らないが、どうかJRパスが留学生にも適用され、留學生活の最後には日本国内を旅行できるようにいただけないかと思う。六甲奨学基金も13ヶ月目の奨学金を旅行のために支給するというプランがでているのに、まだ実現できないでいるが……。

■ブックレット紹介■

「東学農民革命の遺跡地を訪ねて」

信長正義

発行 むくげの会 2010.9 400円(送料80円)全頁カラー版
希望者は、〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 学生センター内
むくげの会に80円切手6枚(480円)をお送りください。

「全北日報」東学農民革命特別取材チーム著、朴孟洙監修
『東学農民革命 100 年—革命の野火 その黄土の道の歴史を尋ねて』(つぶて書房、2007)の訳者・信長正義が、遺跡地をたずねた記録。『むくげ通信』2010年7月号の記事を大幅に加筆したもの。

はじめに

2010年5月末に「東学農民革命」の遺跡地を訪ねることができた。私は神戸の「つぶて書房」より「全北日報」の東学農民革命特別取材チームが著した『東学農民革命 100 年』を翻訳する機会が与えられ、その本が2007年に同じ題名で出版された(写真)。この本の翻訳にあたって2001年に全州を中心にしたいくつかの東学遺跡地を訪ねたことがある。しかしあれから10年が経とうとしていることと、2004年に韓国国会で「東学農民革命参加者等の名誉回復に関する特別法」が公布されたことによって、遺跡地が整備されたり、不明だった戦跡地が発見されたのではないかと思います。2010年の秋にはぜひ訪問したいと願っていた。ところがある偶然が重なり5月末に多くの遺跡地を回ることができた。

20数年前、珠洲市で開かれた「反原発」運動の集会に、韓国から、たどたどしい日本語の若い女性が参加していた。韓国語を学んでいた私の妻はその女性と意気投合し、そこから付き合いが始まったのである。韓国を訪問したときには江華島に住んでいる彼女と出会い、またメールの交換をしていた。

今年早々に彼女から、いま婚約中の男性と秋に日本を訪問したいというメールが届いた。そこで私たち夫婦は、秋ではなく5月末ころに韓国訪問を決め、「全州付近と公州にかけての東学関係の遺跡地を二日間にわたってタクシーで回ってから、江華島を訪れたい」というメールを返した。すると彼女から5月29日に、全州出身の私たちは全州で結婚式を挙げるので、それに合わせて韓国に来てほしい。夫になる人が信長さんのしていることに感動したので、私たちの新婚旅行を兼ねてぜひ遺跡地を案内したいと言っているというのである。なんということだろうか。私たちこそ感動し、ぜひ結婚式に出たいし、遺跡地の案内もお願いしたいという返事をしたのである。そして私は早速案内してもらおう遺跡地等の場所を手紙に書いて出した。

5月28日、私たちは関空を出発して仁川空港に向かった。その後の旅行記を訪問順に記したい。



●青丘文庫研究会のご案内●

■第322回・在日朝鮮人運動史研究会関西部会

9月12日(日) 午後1時～5時

①「在日留学生独立運動事件関係の新たな資料

—東北帝大学生グループ事件と尹東柱・宋夢奎事件の記録—

水野直樹

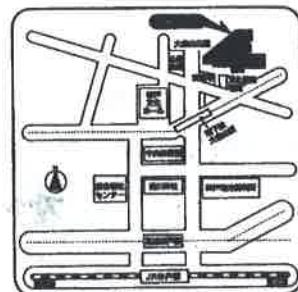
②「アジア太平洋戦争下の大阪府協和会・協和協力会・興生会

と在阪朝鮮人—戦時動員体制への「親日派」朝鮮人の

対応を中心として」

塚崎昌之

※会場 神戸市立中央図書館内 青丘文庫 TEL 078-371-3351



【今後の研究会の予定】

10月10日(日) 在日、未定、近現代史(梶居佳広)。研究会は基本的に毎月第2日曜日午後1～5時に開きます。報告希望者は、飛田または水野までご連絡ください。

【月報の巻頭エッセイの予定】

10月号以降は、太田修、小野容照、梶居佳広、高正子、斉藤正樹、坂本悠一、砂上昌一、高野昭雄、全淑美、塚崎昌之。よろしくお願いします。締め切りは前月の10日です。



長白瀑布で、飛田

【編集後記】

- ・ ほんとにあつい。もう9月だというのに……。異常気象だ。きょう9月6日を、最近では8月36日と言うらしい……。
- ・ 8月13日から20日まで神戸・南京をむすぶ会で中国にでかけた。南京は暑かった。が、延吉は涼しかった。尹東柱の生家、安重根の故居なども訪問した。白頭山にも登った。頂上は寒かった。残念ながら天地は霧で見えることはできなかったが、長白瀑布は、ばっちりだった。／月報のスペースを埋めるため、たびたび登場して失礼しました。飛田 hida@ksyc.jp